※==========※

トラック１

※==========※

★千春：

ごめんくださいなのじゃ〜…

⭐秋穂：

どなたか、いらっしゃいませんか〜…？

★千春：

おっ…！誰ぞ、家の奥から出てくるのじゃ…！

⭐秋穂：

良かったぁ…！いらっしゃったみたいですね…！

ですが…なんて説明したらいいですかね…

★千春：

それは…もう正直に言うしかないじゃろ…！

★千春：

あっ、こ、こんにちわなのじゃ…！

⭐秋穂：

突然、申し訳ございません。

つかぬことをお伺いするのですが

先程、祠の掃除をして下さいませんでしたか？

★千春：

そうじゃ、狐が二匹並んだ寂れた小さな祠

それに油揚げもお供えしてくれたじゃろう？

とても美味しかったのじゃ

⭐秋穂：

私達はその祠に住まう白狐にございまして…

私は秋穂。

★千春：

そして、妾は千春じゃ。

ついては、祠を掃除してくれたお礼にと…こうして参上したのじゃ。

★千春：

あいにく今すぐ渡せる物がなくての…！

それにお主に相応しい物というのが…中々思い浮かばんかった…！

じゃから、妾達をお主にお送りするのじゃ…！

⭐秋穂：

そうですよね…いきなり言われても困りますよね…！

申し訳ありません…！

⭐秋穂：

ですから、ねぇさま…

いきなりの訪問はやめましょうと申しましたのに…！

★千春：

こういうのは善は急げと相場が決まっておるじゃろ…！

★千春：

と、ともかくじゃ、詳しい話は中で…どうじゃ…？

⭐秋穂：

よ、よろしいのですか…！？

ありがとうございます…！

★千春：

やはり妾達の見込んだお方じゃ…💙

それではお邪魔するのじゃ…！

★千春：

ずずず〜〜〜…ぷは〜…

⭐秋穂：

申し訳ありません、いきなり押しかけましたのに…

お茶まで出して頂いて…！

★千春：

ん〜…この煎餅も中々…

ほれ、秋穂もよばれよ。

⭐秋穂：

ねぇさまったら…

★千春：

おぉ…そうじゃな…！

★千春：

さてと…先程の話なのじゃが…

妾達としては、お主にどうしてもお礼がしたい。

⭐秋穂：

そもそも私達は、もうじき消えゆく運命にありました。

既に私達を信仰する者はおらず、祠も貴方様のご覧になった通りの有様…

★千春：

そんな折、お主が来てくれたという訳じゃ！

★千春：

祠を掃除してくれた事…

お主にとっては、一時のきまぐれだったかもしれん…

じゃが、それでも…妾達を敬い、想ってくれた事に他ならん…

そうして誰かが想ってくれる事が、妾達の存在する意義でもあるのじゃ…

⭐秋穂：

貴方様が意図していなかったのは、重々承知しております。

ですが、消えゆく私達を繋ぎ止めてくれた貴方様は言うなれば命の恩人です

どうか…お願いします…！

★千春：

ちなみに、秋穂は家の事が得意じゃぞ～？

煮炊きも洗濯もお手の物じゃ！

★千春：

妾か…？妾は～…そうじゃなぁ…あっ、お主と遊んでやれるぞ…！

昔は、この辺りの童どもと毎日の様に遊んでおったからの…！

遊びの事なら、お任せあれじゃ…！

ど、どうかのぉ…？それでは、ちと弱いかのぉ…

⭐秋穂：

まぁ…！嬉しいです…！ありがとうございます…！

★千春：

おぉ…！では今日から…妾達はお主の妻で…

妾達の旦那様という事じゃな！

⭐秋穂：

不束者ですが、私達姉妹を末永くよろしくお願い致します…♥

ねっ…旦那様…♥

※==========※

トラック２

※==========※

⭐秋穂：

失礼致します、旦那様。

秋穂にございます。

⭐秋穂：

おくつろぎの最中に申し訳ございません。

本日の夕餉のご意見を頂戴致したく思いまして。

何が宜しいでしょうか？

れいぞうこ…の中は拝見しましたが、

その中の物を使って、宜しいでしょうか？

はい、畏まりました

⭐秋穂：

いいえ、お気になさらず。

私は旦那様の妻なのですから、食事の支度など当然です。

むしろ、私の料理を食べて頂けるなら

何よりの幸せです♥

⭐秋穂：

え？して欲しい事があれば、遠慮なく言って欲しい？

ありがとうございます。

でしたら…

⭐秋穂：

それでは…旦那様の温もりを頂戴したく思います…♥

ねぇさまには悪いですが…先んじて頂いても宜しいでしょうか…？♥

ありがとうございます…♥

⭐秋穂：

んちゅっ…♥ぢゅるるッ…♥ちゅぱっ…♥ぢゅるるッ…♥れろれろ…♥

ちゅる…♥旦那しゃま…♥ぢゅるるッ…♥ちゅぱっ…♥ぢゅるるッ…♥

ぷはっ…♥

⭐秋穂：

本当は…ゆっくり愛し合いたいのですが…

ねぇさまに抜け駆けした事がバレてもいけませんから…

私のお口で…というのはいかがでしょう…？♥

この手の事は初めてですが…精一杯頑張ります…♥

⭐秋穂：

はい…♥それでは、お召し物を失礼して…

んっ…っしょっと…♥

⭐秋穂：

あっ…これが旦那様の…マラ…♥

うふふ…可愛らしい…♥

それでは…まず優しく口づけを…♥

⭐秋穂：

ちゅっ…♥ちゅぱ…♥ちゅっちゅ…♥ちゅぱっ…♥ちゅっ〜…♥ちゅっ…♥

ん…少し大きくなってきましたね…♥

⭐秋穂：

それでは次に…先っぽを咥えますね…あ〜…んっ…♥

ぢゅるっ…ぢゅぞぞっ…♥んちゅっ…♥ぢゅるぢゅるっ…♥ぢゅぞっ…♥

んっ…どうでしょう…旦那しゃまぁ…♥ぢゅるるっ…♥ぢゅぞっ…♥

わたひ、気持ちよく出来ていましゅか…？♥ぢゅるるっ…♥れろれろ…♥

そうですか…♥それは良かったです…♥ぢゅるるっ…♥れろれろ…♥

ぢゅぞぞッ…♥ゆくゆくはこのマラで…♥私のほとを…♥んっ…♥

考えるだけで…お腹の奥が熱くなってしまいました…♥ぢゅぞぞッ…♥

そろそろ…んっ…♥激しくしましょうね…♥ぢゅるっ…♥

ゆっくりなのも…もどかしいでしょうし…♥

⭐秋穂：

んむ…♥ぢゅるッ♥ぢゅぞぞッ♥

ぐっぽぐっぽっ♥ぢゅぞぞッ♥

ぐっぽぐっぽッ♥ぢゅるるッ♥

んむっ♥んっ♥ちゅッ♥ぢゅるるッ♥

ぢゅぞッ♥んっ…？味が変わってきました…♥

これが子種の味でしょうか…♥ぐっぽぐっぽッ♥

ぢゅるるッ♥んっ…♥という事は…♥

そろそろ子種が…♥ぢゅるるッ♥

この大きく膨らんだ陰嚢から…

上がってきたという事でしょうか…♥

んっ…♥よろしいのですよ…♥

ぢゅるるッ♥最後は私のお口の中に…♥

旦那様の子種を…お出しくださいませ…♥

遠慮はいりませんので…♥

ぢゅぞぞッ♥ほら…♥出してっ…♥

ぢゅるるッ♥出して下さいっ…♥ぢゅぞぞッ♥

旦那様の濃ゆい…子種を…♥私のお口の中にっ…♥

ぢゅるるッ♥ぐっぽぐっぽッ♥

ぢゅぞッ♥ぐっぽぐっぽっ♥ぢゅるるッ♥

ぢゅぞぞッ♥ぐっぽぐっぽッ♥

⭐秋穂：

んゞッ…！♥んふっ…♥んゞ〜〜〜っ…♥

むふ〜〜〜ッ…♥んッ…♥

⭐秋穂：

んきゅッ…♥ごきゅ…♥ごきゅ…♥ごきゅ…♥

ぢゅる〜〜〜ッ…ぽんっ…♥

⭐秋穂：

ぷへ…♥旦那様の子種…大変美味しかったです…♥

急なお願いにも関わらず…ありがとうございました…♥旦那様…♥

もし宜しければ…また…二人っきりで…お願い致しますね…♥

※==========※

トラック３

※==========※

★千春：

旦那様〜！お邪魔するのじゃ〜！

★千春：

なんじゃ？そんなに驚いた顔をして？

★千春：

なんで入ってきたのかって…

妾達、夫婦なのじゃから…当たり前じゃろう…？♥

別にそんなに恥ずかしがらなくても良いじゃろ…♥

ほら、旦那様座れ座れ…♥

★千春：

まずは〜…お背中お流しするのじゃ♥

え〜と…湯を出してっと…

★千春：

後は…これを使うのかの…

★千春：

では…こうして…旦那様の背中に塗り広げて〜…

どうじゃ…？いい感じ…？おぉ、それは良かった…！

ん〜…それにしても旦那様の背中は大きくて…逞しいのぉ〜…♥

洗い甲斐があるという物じゃ…♥

んしょ…んしょ…

ん〜…手だけではどうにもあれじゃな…

そうじゃ…♥いい事を思いついたのじゃ…♥

★千春：

んしょっと…♥ほれ…どうじゃ…？

妾の胸を使っての…洗体はいかがかのぉ〜…旦那様…♥

自慢じゃないが…秋穂よりも…胸が大きいんじゃぞ…？♥

ほら旦那様…♥洗い足りない所はないかの…？♥

勿論…背中以外でもいいんじゃぞ…？♥くふふ…♥

あぁ…そうじゃ旦那様…♥

先程は秋穂と何やら楽しいそうな雰囲気じゃったなぁ…♥

そんな事はない…？♥嘘を申すでない…♥

どうせ妾を置いて二人で楽しい事をしておったのじゃろ〜…♥

あ〜…仲間外れとは妾、寂しいの〜…♥

妾も旦那様と楽しい事がしたいの〜…♥

いいじゃろ…？♥

くふふ…それじゃあ旦那様…こっちを向いてくれるかの…？♥

★千春：

おぉ〜…♥やはり妾達が惚れた旦那様じゃ…♥

マラの方も一段と逞しく…男らしいのぉ…♥

長さも…太さも…♥それに傘の反り返りも一級品じゃな…♥

秋穂には口でしてもらったのじゃろ…？♥

こんなにマラがぴかぴかじゃからの…♥少し考えれば分かる事じゃ…♥

ならば、妾はこの胸を使うとしようかの…♥

これなら秋穂にも負けんからの…♥

では早速…谷間の部分に旦那様のマラを…んっ…♥挟んでっと…♥

んしょっと…♥

★千春：

旦那様の立派に逞しくそそり立つマラを…♥

んっ…♥優しく包み込んで…♥んっ…♥

こうしてっ…♥んっ…♥上下に…♥扱き上げる様に…♥んっ…♥

動かしてぇ…♥んっ…♥いち…にっ…♥いち…にっ…♥んっ…♥

んっ…♥どうかの…♥妾の柔らかくて大きな胸は…♥んっ…♥

旦那様の逞しいマラが…妾のみっちりと詰まった胸の谷間を…♥

ずりずり…♥ずりずり…♥と…擦り上げてぇ〜…♥んっ…♥

どうじゃ…？♥旦那様は気持ちよくなっておるかの…♥

んっ…♥そうかそうか…♥それは良かった…♥んっ…♥

この柔らかくて…大きな胸は…これからは旦那様の物じゃ…♥

んっ…♥だから…使いたくなったら…いつでも呼ぶのじゃぞ…♥

胸だけではない…妾の身体全部…んっ…♥旦那様の物じゃ…♥

秋穂共々…ぜ〜んぶじゃぁ…♥んっ…♥

これからは…妾達が…一生懸命…真心を込めて…♥

たっくさん気持ち良くしてやるからのぉ…♥

んっ…♥そろそろ出そうかの…？♥

★千春：

んっ…♥よいぞ…♥旦那様の濃ゆい子種…♥妾の胸の中に…♥

こってり…たっぷり…♥ぶちまけるのじゃ…♥

ほれ…旦那様…♥出せ…出せ出せ…♥だ〜せ…♥

★千春：

んっ…♥お〜…♥びゅ〜びゅ〜出ておる♥

…なんと力強い射精じゃ…♥

本当に…胸を孕ます気かの…？♥くふふ…♥

★千春：

ん…旦那様…全部出たかの…？♥

それは良かった…♥

旦那様の気持ち良さそうな…可愛らしい顔が見れて…

妾も満足じゃ…♥

※==========※

トラック４

※==========※

⭐秋穂：

あっ…♥お待ちしておりましたよ…旦那様…♥

★千春：

旦那様の為に…この通り…♥

二人で布団をあっためておったのじゃ…♥

⭐秋穂：

さ、どうぞお入り下さい…♥

★千春：

ん…？なんじゃ…？

もう寝るだけ…？

⭐秋穂：

分かっておりますとも…♥

★千春：

あぁ…寝るだけ…旦那様と一緒に寝るだけじゃ…♥

⭐秋穂：

はい…それでは…おやすみなさいませ…旦那様…♥

★千春：

んっ…♥おやすみなのじゃ…旦那様…♥

★千春：

す〜…す〜…

⭐秋穂：

す〜…す〜…

★千春：

ん…どうじゃ…秋穂…

旦那様は…眠ったかの…？

⭐秋穂：

はい…大丈夫そうです…ねぇさま…♥

★千春：

はぁ…せっかく夜伽の準備もしておったのに…

すぐ眠ってしもうて…

⭐秋穂：

昼間から旦那様に頑張らせすぎてしまいましたね…

反省です…♥

★千春：

でも大好きなんじゃから…しょうがないじゃろぉ…♥

本当は、すぐにでも子作りがしたい所を…

グッと我慢したんじゃ…♥

むしろ褒めて欲しいくらいじゃ…♥

⭐秋穂：

まぁ…そう焦らずとも、ゆくゆくはして下さいますよ…♥

★千春：

あぁ…でもこんなに側にいるのに…

抱いてもらえないなんて…こんなの生殺しじゃ…♥

仕方ない…旦那様の寝顔をおかずに…自分で慰めるとしよう…♥

⭐秋穂：

じゃあ…私も一緒に…♥

⭐秋穂：

あッ…♥あんッ…♥んぁっ…♥あっ…♥あんっ…♥

★千春：

んッ…♥んッ…♥んっ…旦那様…♥あっ…♥好きじゃ…♥んっ…♥

あっ…♥旦那様の…匂い…♥くんくん…♥

首筋のとこ…くんくん…♥あっ…♥好き…♥

★千春：

ふ〜っ…♥ふ〜っ…♥んっ…♥ふ〜っ…♥ふ〜っ…♥

⭐秋穂：

すんすん…♥すんすん…♥あっ…♥本当です…♥

とってもいい匂い…♥すんすん…♥

★千春：

す〜…♥はぁ〜…♥す〜…♥はぁ〜…♥

⭐秋穂：

す〜…♥ふ〜…♥す〜…♥ふ〜…♥

★千春：

あっ…♥すっごく濡れてきてしもうた…♥

くんくん…♥旦那様の匂いで…完全に発情してしもうた…♥

★千春：

す〜…♥はぁ〜…♥す〜…♥はぁ〜…♥

⭐秋穂：

あぁ…♥すんすん…♥私もです…♥すんすん…♥

旦那様の匂いで…頭の中がふわふわする…♥

⭐秋穂：

あッ…♥あんッ…♥んぁっ…♥あっ…♥あんっ…♥

★千春：

それに旦那様の寝顔…カッコよすぎるのじゃ…♥

ん゛ッ…♥ん゛ッ…♥あ゛ッ…♥

ごめんなさいなのじゃ…♥

旦那様の寝顔を勝手におかずにして…

ごめんなさいなのじゃ…♥あ゛ッ…♥

⭐秋穂：

ごめんなさい…♥旦那様…♥ごめんなさい…♥

姉妹揃って…旦那様をおかずにして…ごめんなさい…♥

★千春：

あ゛ッ…♥イッく゛ッ…！♥

⭐秋穂：

んゞッ…♥イゞきますッ…！♥

★千春：

んゞ〜〜〜ッ…！♥

⭐秋穂：

んゞ〜〜〜ッ…！♥

★千春：

は〜ぁ…♥は〜ぁ…♥は〜ぁ…♥

⭐秋穂：

ふ〜っ…♥ふ〜っ…♥ふ〜っ…♥

★千春：

秋穂…！ど、どうしようなのじゃ…♥

すっごいお潮出ちゃったのじゃ…♥

⭐秋穂：

わ、私もです…♥

お布団がぐっしょり濡れてしまってます…♥

★千春：

えぇ…！？旦那様…お、起きたりしないじゃろうな…？♥

⭐秋穂：

大丈夫そうですよ…♥ぐっすりお眠りです…♥

★千春：

じゃあもう少し…あと１回だけ…♥

⭐秋穂：

そうですね…あと１回…♥

⭐秋穂：

ん゛ッ…♥あ゛ッ…♥あん゛ッ…♥ん゛ッ…♥ん゛ッ…♥あ゛ッ…♥

★千春：

ん゛ッ…♥あ゛ッ…♥うぅ゛ッ…♥

もどかしいのじゃ…♥奥の゛ッ…♥一番奥の痒い所に…♥

妾の細い指では…届かん゛ッ…♥

旦那様の…ん゛ッ…♥長くて太い指なら…♥

絶対引っ掻ける筈じゃ゛ッ…♥ん゛ッ…♥

でもそれよりも…♥旦那様のマラが欲しいっ…♥

あのカッコ良いマラで…奥いっぱい引っ掻いて欲しいのじゃ…♥

⭐秋穂：

こんなお優しいお顔なのに…♥

あんな凶悪な物をお持ちで…ますます大好きになってしまいますッ…♥

★千春：

うぅ゛ッ…♥

旦那様は妾の事をどんな風に…抱いてくれるのかの…♥

ん゛ッ…♥

やはり優しく…♥好き…好きって…♥

愛を囁きながら…抱いてくれるのかのぉ…♥

⭐秋穂：

それとも…雄の本能剥きだしの…

乱暴な交尾かもしれませんね…♥

メスの大事な…子宮を殴りつける様な…

ケダモノ交尾をしてくださるのかも…♥

★千春：

う゛ッ…ダメじゃ…♥

優しい旦那様も…乱暴な旦那様も…

どっちもかっこよすぎるのじゃ…♥

⭐秋穂：

あぁ…いつか旦那様に…

ぐちゃぐちゃにされるのを…思うと…♥

ん゛ッ…♥あ゛ッ…♥

★千春：

眠った旦那様の横で…♥

勝手におっぱじめてイク…メス狐で…♥

ごめんなさいなのじゃ…♥ん゛ッ…♥

⭐秋穂：

私も…♥大好きな旦那様に…

乱暴に抱かれるのを想像してイク…

淫乱メス狐で…♥

申し訳ございません゛ッ…♥あ゛ッ…♥

★千春：

う゛〜〜〜ッ…イっく゛ッ〜〜〜ッ…！♥

⭐秋穂：

お゛〜〜〜ッ…♥お゛…ッ…♥イき゛ッ…ますッ…！♥

★千春：

あ゛〜〜〜ッ…！♥

⭐秋穂：

あ゛〜〜〜ッ…！♥

★千春：

はっ…♥はぁ〜…♥はぁ〜…♥はぁ〜…♥

⭐秋穂：

ひっ…♥ふ〜ッ…♥ふ〜ッ…♥ふ〜ッ…♥

★千春：

うぅ…♥気持ち良かったのじゃ…♥

⭐秋穂：

これは癖になってしまいそうですね…♥ねぇさま…♥

※==========※

トラック５

※==========※

★千春：

あっ…まずいまずい…惚けておる場合ではないぞ秋穂…

⭐秋穂：

そうですね…早く片付けませんと…旦那様を起こしてしまいます…

★千春：

そうじゃな…

あっ…だ、旦那様…起きてしもうたのか…？

⭐秋穂：

え…？なんだか生暖かい…？

こ、これは…ち、違うんです…その…これは…

★千春：

うぅ…秋穂…無駄じゃ…これは誤魔化しきれん…

★千春：

旦那様…す、すまぬのじゃ…

旦那様の傍におると…どうしようもなく…

胸が苦しくなってしもうての…

⭐秋穂：

旦那様のお眠りを妨げるつもりは決してなかったんです…

★千春：

ちょっと…その…二人して夢中になりすぎて…

粗相をしてしもうたがな…あはは…はっ…

★千春：

うぅ…旦那様…こんなはしたないメス狐で…

ごめんなさいなのじゃ…

⭐秋穂：

お許しください…旦那様…

★千春：

んっ…♥な、なんじゃいきなり…抱き寄せて…♥

あっ…なぜすでにこの様に大きくしておるのじゃ…♥

⭐秋穂：

もしや…最初から起きてらしたのですか…？♥

★千春：

なんじゃ…そうだったのか…じゃったら、話が早いの…♥

妾達の想い…しかと伝わったじゃろ…？♥

⭐秋穂：

お願いです…旦那様…♥

もう…旦那様に愛して頂かないと…

私達の火照り…収まりそうにありません…♥

★千春：

の…？良いじゃろ…？♥

旦那様の好きな様にしてよいからぁ…♥

★千春：

あっ…♥あんっ…♥んっ…♥

やる気を出してくれて…んっ…♥

あっ…♥んぁ…♥嬉しいのじゃ…♥

⭐秋穂：

うぅ〜…ねぇさまが先ですか…？ずるいです〜…♥

★千春：

秋穂は妾の目を盗んで…

先に旦那様を味わったんじゃから、良いじゃろ…♥

⭐秋穂：

む〜〜〜っ…♥

旦那様…ねぇさまが終わったら…私の番ですからね…♥

★千春：

ほれ…早速…んっ…♥

★千春：

妾のほとに…♥旦那様のマラをずっぽし…挿れてくれ…♥

★千春：

んッ…♥おほッ…♥旦那様の゛ッマラが…♥

妾のほとを掻き分けてッ…♥おッ…♥お〜〜〜ッ…♥

★千春：

おッ♥おッ♥んぉッ♥ほッ♥ほッ♥

んッ♥んッ♥おほッ♥んッ♥んぉッ♥

あッ♥奥ッ♥妾の気持いいとこに゛ッ♥

旦那様のマラがっ♥当たっておるのじゃっ♥

おッ♥んぉッ♥ほッ♥ほッ♥気持ちッ♥

身体がッ♥喜んでおるッ♥おッ♥おほッ♥お〜ッ♥

★千春：

おッ♥おッ♥んぉッ♥おほッ♥おんッ♥おんッ♥おほッ♥ほッ♥

⭐秋穂：

まぁ…♥ねぇさまのこんな声…聞いた事がありません…♥

旦那様に愛してもらって…とっても嬉しいんですね…♥

あぁ〜…いいなぁ…♥

私も早く…♥旦那様に愛して欲しいですぅ…♥

★千春：

お゛ッ…♥んぉ゛ッ…♥だ、旦那しゃま…♥

口吸いを…して欲しいのじゃぁ…♥

んっ…♥ぢゅるッ…♥ぢゅぞぞッ…♥

ぢゅるるッ…♥ちゅッ…♥ちゅぱッ…♥

んちゅッ…♥旦那しゃま…♥ぢゅるるッ…♥

愛しておる…♥ちゅっ…♥ぷはッ…♥

★千春：

おッ♥おッ♥んぉッ♥おほッ♥んッ♥んッ♥おほッ♥ほッ♥おッ♥

んぉッ♥おんッ♥おんッ♥おッ♥おッ♥おほッ♥お〜ッ♥

⭐秋穂：

ねぇ…旦那様…♥私…見てるだけなんて寂しいです…♥

私にも…口吸いを…お願い致します…♥

⭐秋穂：

んっ…♥ぢゅるるッ…♥ぢゅぞぞッ…♥

旦那しゃま…♥ぢゅぞぞッ…♥ちゅッ…♥ちゅぱッ…♥

ぢゅるるッ…♥れろれろ…♥ちゅぱッ…♥

ちゅッちゅッ…♥ぢゅるるッ…♥ちゅぱッ…♥

★千春：

あっ♥んぉッ♥おッ♥ダ、ダメッ♥おッ♥

ダメなのじゃぁ〜♥んほッ♥んッ♥

んぉッ♥んぉッ♥おんッ♥おッ♥おッ♥んぉッ♥

今はッ♥妾の番なのにッ♥おッ♥んぉ〜ッ♥

旦那様の事、取っちゃ嫌なのじゃぁ〜♥

⭐秋穂：

ぢゅるるッ…♥ぢゅぞぞッ…♥ぷはっ…♥

申し訳ございません…ねぇさま…♥寂しくてつい…♥

もうお返ししますからね…♥

★千春：

旦那しゃまっ♥だいちゅきっ♥だいちゅきなのじゃっ♥

じゃから♥妾の事…お母さんにして欲しいのじゃ♥

ずっと旦那様の側にッ居たいのじゃッ♥

★千春：

あっ♥あんっ♥おっ♥おっ♥あんっ♥おっ♥おんっ♥おっ♥

⭐秋穂：

甘えん坊なねぇさま…可愛い…♥

ほら、旦那様…♥ねぇさまの中に…♥出してあげて下さい…♥

お腹の奥に…♥旦那様の子種を…たっぷりと…♥

★千春：

旦那しゃまッ♥出してッ♥

お腹の奥で♥旦那しゃまの子種を♥

妾の卵が待っておるのじゃッ♥

絶対赤ん坊を作るとッ♥おっ♥

首を長くして待っておるのじゃっ♥

★千春：

あっ♥あんっ♥おっ♥おっ♥あんっ♥おっ♥おんっ♥おぉっ♥おんっ♥

⭐秋穂：

ほら…♥ねぇさまもこう仰っていますから…♥

旦那様…♥さぁ…♥遠慮なく…♥

★千春：

お゛〜〜〜ッ！♥お゛〜〜〜ッ♥

お゛ッん…♥お゛〜〜〜ッ…♥おほ…ッ…♥

でておりゅ゛ッ…♥旦那しゃまの゛ッ…♥あっちゅい子種が…♥

妾の中にッ…♥びゅるびゅる…ひりだされてりゅ゛ッ…♥

お゛ッ…♥これじぇったい…妾の卵に…♥

旦那しゃまの子種…くっちゅいたぁ〜…♥

旦那しゃまとの…赤ん坊…♥じぇったい孕んだぁ〜…♥

★千春：

んぉ゛ッ…！♥

★千春：

ほぉ…♥ほっ…♥ほへ…♥ふ〜っ…♥ふ〜っ…♥

⭐秋穂：

あらあら…ねぇさま伸びちゃいましたね…♥

でも…とっても幸せそうなお顔…♥

⭐秋穂：

それでは…今度は私の番ですよ…♥

⭐秋穂：

さぁ…旦那様…お願いします…♥

私の事も…たっくさん可愛がってくださいませ…♥

⭐秋穂：

ふ〜っ！♥ふ〜っ！♥待ちに待った…♥旦那様のマラ…♥

⭐秋穂：

ん゛ッ…♥んお゛ッ！

♥お゛ッ♥お゛ッ♥おん゛ッ♥おん゛ッ♥おへッ♥んぉ゛〜〜〜ッ♥

んぉ゛ッ♥お゛へッ♥おん゛ッ♥おん゛ッ♥お゛〜ッ♥

は、激し゛ッ♥激しすぎましゅ゛ッ♥

私のお腹の奥ッ♥子宮に゛ッ♥先程からッ♥

んぉ゛ッ♥旦那様のマラがッ♥

ごちんッ♥ごちんッ♥当たって゛ッますッ♥んぉ゛ッ♥お゛ッ♥

ちゅよ゛ッ♥ちゅよすぎましゅ゛ッ♥マラちゅよい゛〜〜〜ッ♥

お゛ッ♥んぉ゛ッ♥お゛ッ♥んぉ゛ッ♥

なんでこんな激しくッ♥

⭐秋穂：

え゛ッ♥さっきのッ！？♥

あ゛ッ♥んぉ゛ッ♥あ゛ッ♥ちがッ♥違いますッ♥

先程のはッ♥ほんの戯言でしゅ゛ッ♥お゛ッ♥

本気でッ♥思っていませんッ♥旦那しゃまがッ♥んぉ゛ッ♥

雄の本能剥きだしの♥

ケダモノ交尾をするだなんてッ♥全然思ってませんッ♥

そんな風に思われてたなんてッ♥傷ついた？♥

であればッ♥謝罪致しますッ♥んぉ゛ッ♥

でしゅからッ♥お情けを♥お情けを〜ッ♥

⭐秋穂：

お゛ッ♥おん゛ッ♥おん゛ッ♥お゛ッ♥お゛ほッ♥んぉ゛ッ♥

マラッ♥ちゅよッ♥ちゅよい〜ッ♥んぉッ♥お゛ッ♥お゛ッ♥お゛ッん♥

んぉ゛ッ♥おん゛ッ♥おん゛ッ♥お〜ッ♥おほッ♥んぉ゛ッ♥お゛〜ッ♥

おほッ♥おん゛ッ♥おん゛ッ♥おッ♥おん゛ッ♥

おッ♥おほッ♥おん゛ッ♥お゛ッん♥

★千春：

目を覚ましてみれば…なんと情けない声を出しておるのじゃ…♥

のぉ…旦那様ぁ…♥ここは妾に免じて…な…？♥

可愛い妹じゃから…許してやってくれんかのぉ…♥

秋穂…旦那様は許す気はない様じゃ…♥

これも身からでは錆…♥甘んじて罰を受けると良いのじゃ…♥

⭐秋穂：

しょんにゃ゛ッ♥んぉ゛ッ♥お゛ッ♥

んぉ゛ッ♥お゛ッ♥んぉ゛ッ♥お゛〜〜〜ッ♥

あ゛ッ♥マラ膨らんでりゅ゛ッ♥

んぉ゛ッ♥お゛ッ♥んぉ゛ッ♥お゛ッ♥

私に゛ッ♥トドメをッ♥んぉ゛ッ♥

トドメを刺すんですねッ♥んぉ゛ッ♥

あ゛ッ♥生意気メス狐ッ♥

旦那しゃまの゛ッ♥きっつい折檻ッ♥して下さいませッ♥

★千春：

んぉ゛〜〜〜ッ！♥おぉ゛〜〜〜ッ！♥

あ゛〜ッ…♥でてりゅ゛ッ♥んぉ゛ッ♥

あちゅい゛ッ♥旦那しゃまの゛ッ♥子種ッ♥

おぉ゛ッん♥子宮にッ♥んぉ゛ッ♥

へばりついてッ♥とれにゃくなってりゅ゛ッ♥んぉ゛ッ♥

子種ッ♥べちょってッ♥んぉ゛ッ♥お゛ッ♥ダメッ♥

これダメッ♥子宮やけどッ♥やけどすりゅ゛ッ♥

んぉ゛ッ♥おひッ♥んぉ゛ッ♥お゛〜〜〜ッ♥

⭐秋穂：

へ〜っ…♥へ〜っ…♥ふひっ…♥へッ…♥

ふへッ…♥ひ〜っ…♥ふひ〜っ…♥

★千春：

あぁ…秋穂も伸びてしもうたの…♥

まぁ…あれほど狂わされたら致し方ないのぉ…♥

旦那様…これからも末永く…妾達の事を…よろしく頼むのじゃ…♥